

【JCCA 本部】近畿整備局との意見交換会の記事が掲載されました

整備局と協同  
建設局が意見交換

# 技術力重視した選定要望

## 「価格だけの競争見直す」



建設コンサルタント協会（廣谷彰彦会長）と近畿地方整備局、近畿2府5県（福井県含む）、政令市、阪神高速道路会社は12日、2009年度意見交換会を大阪市中央区の高松ビルで開いた。写真。協会側がプロポーザル方式の拡大や総合評価方式による入札の適切な運用など、技術力を重視した業者選定を要望、同局はプロポーザルに適したものの、総合評価入札になじむものを見極めて発注することとし、技術力に主眼を置いた選定方式を採用すると回答した。

木下誠也近畿地方整備局長「続いて廣谷会長は、「意見交換は「まだ入札契約制度には改善点がある。特にコンサルタント業務は品質と価格による評価というより技術による評価を基本とし、価格だけに競争は見直していき」とあいさつした。

「品質の確保と照査」の3つの要望と提案について意見交換した。

技術力に基づく選定では、プロポーザル方式の拡大について、整備局が「官積算でできるものに総合評価を採用する場合でも、技術力をしっかりと評価したい」と答えた。自治体も高度な技術力を要する案件には、積極的に採用していく方針を示した。

地域に精通した、意欲ある企業の参画機会については、同局が08年度から採用している選定枠拡大適用方式（21世紀枠）を09年度も引き続き継続するとした。

同局は、設計者が参画する際の報酬、積算基準などについて説明したほか、「例えば三次元CADなど、具体的に、よりわかりやすいツールを三者協議会で活用したい」と提案した。

品質の確保と照査では、協会が適切な低価格入札対策の実施を要望した。同局は、本省を含め、実効を伴う対策を検討中と答え、協会とともに考えていきたいとした。